

事業計画書

① 団体名	遊び場を考える会		
② テーマ区分	指定テーマ(①) ・ 自由テーマ		
	該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。		
③ 事業名	冒険遊び場(プレーパーク)を含む外遊びの普及・促進	④ これまでの採択回数	0回目
⑤ 現状及び課題	<p>○一昔前は、日が暮れるまで、子どもたちが外で一緒に遊んでいる光景を見たものですが、最近は、ほとんどそのような姿を見ることがなくなってきました。子どもたちが安心して遊べる遊び場がなくなっていることも一つの原因と考えられます。</p> <p>○いまどきの子どもが遊ぶ光景としては、家の中でめいめいが、ゲームを片手に黙々と画面を操作している姿ではないでしょうか。(大手玩具メーカーが、平成30年3月に全国の小中学生900人を対象に実施したアンケートでも、遊びのトップは、スマホやゲームが、1, 2位という結果が出ています。また、この調査で、「空き地で遊んだ」と回答した割合について、親世代は27%だったのに対し、子ども世代は6%でした。 ((株)バンダイ2018.4/24 プレスリリース)</p> <p>○本来、子どもたちは、「遊び」の中で、創造性や社会性、規範意識、協調性など、多くのことを学びます。</p> <p>○特に外遊びでは、四季の移ろいを感じながら、思い切り体を動かし、自分の能力に問いかけ、限界に挑戦し、勇気を試し、友達とルールづくりをしながら、時にけんかをし、会話をし、助け合い、日が暮れるまで一緒に遊ぶことができます。</p> <p>○友達と地域とに愛着を感じ、大きくなって、子どもの頃のことを思い出すとき、必ず、そこに帰ってみたいと感じられるような、原風景を持っていることは、子どもの将来にとって、かけがえのないものではないでしょうか。</p> <p>○三重県が平成27年に実施した野外体験保育有効性調査でも、その実施頻度が高いほど、「自分からすすんでなんでもやる」「だれにでも挨拶ができる」「人の話をきちんと聞くことができる」など、生きていく上で大切な行動ができると回答した割合が高くなっています。</p> <p>○また、平成26年にお茶の水大学の内田名誉教授が行った調査でも、「思いっきり遊ばせること」「子どもの遊ばせ方で自発性を大切にすること」を意識した保護者の子どもほど、難関大学に合格した割合が高いとの結果が出ているようです。(H26, 2.14:NHKニュースおはよう日本)</p> <p>これらのことから、子どもたちに、冒険遊び場(プレーパーク)を含む、外遊びの中での自由な野外体験活動を通して、これらの多くのことを学ぶことは、子ども達が健全に成長する上でたいへん重要なことです。</p> <p>また、平成30年7月豪雨災害による被害のなかでも、子どもたちが受けた心の傷が大きな問題となりました。少しずつ復興は進んでいますが、完全な復興にはまだまだ時間がかかり、子どもたちは、依然として、不安やストレスを抱えています。</p> <p>こうしたなか、子ども達の心のケアは喫緊の課題であり、心のケアに視点をおいたプレーワーカー等が野外での自由に遊べる時間と空間を提供することは、子ども達の心のケアのひとつになることができます。</p>		

⑥事業内容

1 川、海、山での外遊び体験事業（笠岡地区実施事業）

※詳細は別紙のとおり

(ア)「吉田川流域探検」(5/26(日))

笠岡市大井地区内の吉田川(1~1.5km)を歩く(野中さんに指導依頼)
キャッチコピー”川の中を歩くと何があるの?“

(イ)「白石ヨット操縦体験」(6/16(日))

笠岡市白石島ビーチでディンギーヨットに乗り操縦を学習し、次年度に繋げ活かすために、マニュアルを作成するとともにリーダーとなる子どもを養成する。(オーシャンメールの丸山会長に指導依頼)

* 令和2年の本格実施を目指して31年度は少人数で試行
キャッチコピー”ヨットの操縦って・・楽しい!“

(ウ)「無人島自然体験」(8/25(日))

笠岡市にある無人島の岡山県青少年の島(梶子島)で”生き物観察・採取及びビーチ清掃実施。かさおか島づくり海社、笠岡市環境課と連携
キャッチコピー”無人島って何がある!“

(エ)「いはら山木こり体験」(11/24(日))

岩原(いはら)山山頂付近の広場を使い伐採を体験

(チェーンソーを使った伐採の実演・実技指導を実務者に依頼)

キャッチコピー”山の中ってどんな所?木こりになって木をきってみよう!“

(オ)「自然の中で思いっきり外遊び!」(毎月第3日曜日)

冒険遊び場とその周囲で、子どもたちが自分の考えで自由に遊ぶ。
キャッチコピー”自分の責任で自由に遊ぼう“

併せて、(ア)~(オ)について、可能な限り、管内市町の子育て支援関係者等を招き、冒険遊び場を実際に体験してもらいながら、その効用等を説明。他地域での冒険遊び場の運営に従事できる人材の育成を行い、冒険遊び場の普及を図る。

2 プレーカーによる出張プレーパーク事業（真備地区実施事業）

専門家のプレーワーカーが乗ったプレーカーに遊び道具を積み「プレーパーク」を実施

- ・開催日時：毎月第2土曜日（全10回）10：00～15：00
- ・開催場所：倉敷市真備町川辺地区内
- ・対象者等：真備地区内外の児童とその保護者、支援者等 約50名
- ・目的：

多くの子ども達に外遊びの楽しさを感じてもらうとともに、被災した児童についての不安・ストレスの軽減も図る。

また、来年度以降、地域での自主活動へ段階的に移行及び将来の他地域への普及等を目指し、子育て支援に携わる者や関心のある方を募り、運営ノウハウの研修や実地体験等により、プレーパークを真備地域や他地域で運営できる人材を育成する。

親世代には、元気な子どもの姿を見ることで子どもの発達の確認や外遊びの理解促進、地域を越えたつながりづくりの促進を図る。

3 冒険遊び場（プレーパーク）普及促進講演会

倉敷市及び早島町で講演会を行うことにより、子どもにとっての外遊びの重要性や効用を、子育て中の親や、子育て支援に従事する関係者に周知するとともに、冒険遊び場（プレーパーク）の取組などを紹介し、管内市町での普及促進を図る。

- ・開催日：令和2年1月
- ・開催場所：ライフパーク倉敷及び早島町中央公民館（2会場）
- ・対象者：子育て中の親、子どもに関わる大人、行政職員、学生など
- ・内容等：講演（日本冒険遊び場づくり協会（予定））
体験活動や出張プレーパークの実施状況、実績等の紹介、報告。

なお、上記事業については、各団体HPや県民局facebook、マスコミへのプレスリリース等を通じ、情報発信を行うとともに、特に1の事業については、笠岡市とも連携しながら、各学校へのチラシ配布や、市の広報誌、CATV、県民局Facebook等を活用しながら、更なる周知・広報に努める。

また、活動の成果については、事業参加者（子ども、保護者、支援者）に対し、アンケートを実施し、事業の評価を行い、次年度以降の事業に反映させる。

*主として、上記1は、いはら山冒険遊び場（代表：東馬場省吾）が、2及び3は、申請団体が担当します。

⑦事業目的 (目指す直接の結果)

1 子どもに関して

- ①子どもの創造力を養い、社会性、協調性、自主性、勇気、人を思いやる心、リーダーシップ、コミュニケーション能力や体力を身につけ、子どもの心に原風景を焼き付け、郷土愛を育み、郷土に住み続け又はいつかふるさとに帰ってくるための動機づけなどがなされること。
- ②豪雨災害で被災した子どもが、自由に安心して遊べる場所を提供し、不安やストレスの軽減を図る。
- ④発達障害のある子どもにとっては、プレーパークは、感覚統合のための多くのプログラムが含まれていることなどから、自閉症や学習障害を含む発達障害のある子ども、人と関わりながら遠慮することなく、自分の思ったことが表現できる場として、親子で安心できる居場所となることが出来る。また、その経験が普段の生活の中でも活かされる。
- ④将来的に、子どもたちの身近なところにプレーパークが形成され、放課後児童クラブや幼稚園・保育所などとも連携しながら、さらに多くの子どもたちが活用し、上記①の目的が達成されることを目指す。

2 地域に関して

- ①管内の各地域へ、冒険遊び場の普及促進を図ることにより、子ども・保護者・支援者等が定期的集う場（居場所）を形成し、地域の活性化につなげる。（様々な技能等を持った高齢者が、子どもたちにそれを伝承等することで、生きがいつくり繋がる可能性も。）

	<p>② プレーパークが、子育て世代にとって魅力的な地域資源となることにより、人口増加を目指す。(実際に県南東部では、プレーパークがあることで県外からも移住してくる人がいるケースもある。)</p> <p>3 家庭に関して 保護者もプレーパークに参加することにより、子育ての悩みの共有やその他の情報交換等を行うことにより、子育ての孤立化を防ぐ。</p>
<p>⑧今年度期待される成果 (短期アウトカム) その活動で得られる利益や変化</p>	<p>1 子どもに関して 参加した子どもに、次のような変化が現れることを期待しています。 ○体も心もたくましく丈夫な子どもになることが期待される。 ○地域の人たちと顔見知りになることで、挨拶を交わすことが出来る。 ○異年齢で多様な環境の人たちをひとりの人として尊重し、認め合うことが出来る。 ○相手の話を聞き、話し合い、臨機応変自分たちでルールを変えたり考えることが出来る。 ○自分一人で出来ないことは、そこにいる人に助けを求めることが出来る力が育まれる。 ○自分も楽しいことが出来るが、相手のことも思いやることを考えることが出来る。 ○保護者の間で、子どもの遊び場の必要性についての認識が高まる。 ○被災した地域の子どもの不安・ストレスが軽減される。被災した大人も元気になる。</p> <p>2 地域に関して プレーパークの重要性を認識していただき、地域でのプレーパークの実施に繋がる下地をつくる。</p> <p>3 家庭に関して まずは、笠岡、真備地区で活動することで、これらの地域の保護者について、子育ての孤立化を改善し、子育てしやすい環境づくりの第一歩とする。</p>
<p>⑨将来的に期待される成果 (中・長期アウトカム)</p>	<p>○将来的には上記⑦の全ての目的が、管内の各市町で、達成されることを期待する。 ○その他、被災地域のコミュニティーの再構築 ○真備にプレーパークがあることで、子育て世代の親が真備に帰るための灯台のような役割を果たすこと。 ○プレーパークを担う人材の育成などにも繋がると考えている。</p>
<p>⑩翌年度以降の事業展開の予定</p>	<p>1 川、海、山での外遊び体験（笠岡地区事業） ・川の事業については、他の河川で実施 ・ヨット体験については、20人規模に拡大 ・その他の事業については、継続実施</p> <p>2 プレーカーによる出張プレーパーク事業（真備地区事業） 真備地域の方々による自主的な事業に移行させるため、子どもの居場所となるプレーパーク開催の相談、コーディネート、経験を活かしたアドバイス等、支援者としての役割に移行することを検討</p>

	<p>3 冒険遊び場普及講演会 継続して実施する。</p>
<p>⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント</p>	<p>○真備地区でのプレーカー実施 日本財団 平成30年7月豪雨災害 NPO・ボランティア活動支援事業の助成を受け、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会と遊び場を考える会が協働で、H30/11～H31/3月の間、真備地区数カ所でプレーカーを実施。不安やストレスを抱える、子どもを中心とした被災者の方々が、遊ぶことによって、気持ちを開くことができ「心のケア」につながればという思いをのせて、遊び道具をつみ、プレーリーダーという遊び場づくりの専門家が乗ったプレーカーを走らせた。(第一土日：真備総合公園、第二土日：菌小学校、第四土日：川辺小学校、第二第四木曜：グリーンパークまび、第三土日は、みなし住宅の人は酒津公園の方が近い人もいたので、2001年より実施の酒津プレーパーク開催)</p>
<p>⑫想定される役割分担</p>	<p>【団体】 ① 事業実施 ② 関係機関等との調整</p> <p>【県民局】 ① 事業実施に当たって、より効果的に実施するための助言 ② 市町など、公的機関との連絡調整 ③ 広報 ④ 講演会：会場予約、挨拶、参加要請</p> <p>【期待できる相乗効果】 ○県民局が関与することで、事業の信頼度が上がり、市町（教育委員会及び児童福祉部局）や関係機関からの協力を受けやすくなる。 ○マスコミ等への働きかけにより、事業の周知、外遊びの効用などを発信できる。 ○本庁（子ども未来課）とも連携しながら、事業を実施することで、プレーパークを県内に展開する下地づくり。</p> <p>【その他】</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑥事業内容」欄は、それぞれの活動について課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 継続事業は「⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄に昨年度までの採択事業の主な実績・成果も記載してください。
- 4 「⑫想定される役割分担」欄は、協働協定書等に基づき提案団体及び備中県民局、その他の役割を記入してください。